

## 2016年度 栄養カウンセリング・スキルアップ研修 in 上越を開催しました

管理栄養士は、それぞれの現場で結果・成果を出すことが求められています。現場の管理栄養士に求められる栄養カウンセリング能力は、対象者情報を的確に収集・把握し、科学的根拠に基づく最適な栄養・食事に関する栄養教育の技能・手法を実践することであり、それらの技能を有する専門家の適切なアドバイスを受け、自らが体験・経験しながら習得していくことが最も効果的です。

これまで日本臨床栄養協会が「栄養カウンセリング研修」で実践してきた「課題解決型学習」形式にて、去る5月7日8日の2日間にわたって「2016年度栄養カウンセリング・スキルアップ研修 in 上越」を実施しました。診療報酬改定によって最もホットなトピックスである「低栄養」をキーワードとした研修をはじめ、患者情報に基づく参加者同士の議論や意見交換の場を多く設定し、実践的な栄養管理に関する知識や技術の向上を図るための研修を2日間にわたって行いました。

新潟県上越市の上越教育大学学校教育実践研究センターを会場とし、緑に囲まれた自然豊かな環境の中で集中して研修を行うことが出来ました。今後もこのようなスキルアップセミナーを実施することが大切であることを、講師陣、参加者ともに実感した2日間でした。

### 5月7日(土)

挨拶 多田紀夫 先生、樫山 純 相談役

研修1「消化器癌患者における低栄養と周術期管理」櫻井洋一 先生

研修2「栄養カウンセリングで成果をあげる管理栄養士になるために」早川麻理子 先生

研修3「栄養相談専門士による症例発表」(症例発表)

研修4「栄養相談専門士とともに学ぶ症例検討」(グループワーク)



5月8日(日)

研修5「科学的根拠に基づく栄養カウンセリングの理解」

～対象者の何を見てどのように判断するのか～ 早川麻理子 先生

研修6「科学的根拠に基づく栄養カウンセリングの実践」

～適切な栄養診断による栄養カウンセリングの実践～(グループワーク)

ランチョンセミナー(大塚製薬株式会社)

研修7「患者に受け入れられる栄養カウンセリングの秘訣」

研修8「管理栄養士が現場の実績を積み上げる必要性とその秘訣」

